香小研算数部会研究発表会　　第２学年討議会　　討議記録

「どうぶつの家をつくろう」

１　提案の主張点

この学年では，１学年に引き続き，ものの形についての観察や構成などの活動に重点を置き，生活における様々な経験を生かしたり，図形についての親しみをもたせたりしながら，図形についての理解の基礎となる経験をいっそう豊かにすることをねらっている。

本単元で，三角形・四角形の定義を知り，図形を切り取る，折る，手探りで袋の中の図形を当てるなどの活動を通して，図形の構成要素である辺や頂点に目をつけさせたい。

ここでは，楽しみながら学習し，定義をどれだけ深く理解できるかが大切である。答えが分かっても終わりではない。分かったことを交流することから始まる。

また、分からないことを「分からない。」と言える学級作りを目指してきた。

２　提案に対する意見

協力者：「さんかく」は正三角形，「しかく」は正方形と考えている児童が多い。定義を定着させるために，袋に中に手を入れて，１，２と辺を数えることは概念達成でき，有効である。

T1：楽しみながら，概念を深める学習であった。さわる段階では，ばくぜんとした形に意識がいって，直線にしぼった見方ではなかった。後の全体交流で，直線に意識がいった。

授業者：活動１が何だったのか？直線が見えない分，面に意識がいってしまった。意図したこととずれてしまった。目に見えないと，直線を感じるのは難しい。

司会者：言葉でうまく言えたら理解していると思いがちだが，実際はそうではない。今日の活動で体で定義を覚えられた。

T2：角がとがっているということは，やはり目で見るだけでなく，さわることが有効。「さんかく」という言葉で「三角形」という言葉でおさえるべきである。

不等辺四角形では，辺を棒でおいたが，その後，目と手で触り，1,2,3,4 と数えると，より定着できる。

T3：子どもの意識の流れを重視した単元構成をすべきである。①④③②⑤次の順がよかったと思う。

授業者：児童の実態から疑問を解決したいと考えた。

T4：直線を思い出さすために「大工さんの柱」という助言が良かった。「みんなでバイキンマンをやっつけるぞ。」という意識があり，「分からなくてもみんなで考えたらいいんだ。」という雰囲気があるので，学校へ行くのが楽しくなると思う。

T5：手で触った物をかいてみるのもいいのではないか。直線か曲線か意識できる。実際に写してかく活動もあったらよい。

授業者：実際にかいた図の上に重ねておいていた子がいたので，修正する活動もあるとよかった。

協力者：今回の評価基準は，1 つ目は，三角形・四角形ができたらＢ，理由が付けられたらＡ。２つ目は，どれくらい分かっているかを知るために，ワークシートで行う。

３　御指導

さわることは，五感を重要視したとてもよい活動で，定義が子どもの中に落ちたと思える。ただ，教科書は辺だけなので，周りだけの物を使うべき。

評価は，１時間に１つが適当。これは，次時に生かすためのものであって，まだ評定に結びつけてはいけない。だから，どこに総括を入れるか，単元構成の段階であらかじめ考えておくことが大切。

（県教委義務教育課　善生　昌弘先生）

さわった物をかくのは，とても難しい。が，子どもはよくやっていた。

本単元のねらいは，いろいろな経験をすること。本時は，図形に対する概念が変わっている。次時は「三角形・四角形を作ろう」という目的をもって切るという活動をすると，さらに概念が深まるだろう。

本時の良さは，いろいろな言葉が出ていること。たくさんの経験を積んで，概念を深める単元であるので，算数的活動は達成している。

評価基準については，ＡとＢの境が難しい。評価は変わっていくので，ずっとＣのままというわけではない。本時しかとれないこともあるし，前時にもどらなければならない評価もある。